

2010年3月期 決算概要と 2011年3月期の取り組み

代表取締役社長
高橋 晃

2010年 5月 12日

決算概要 (累計)

(億円)

	09/3期	10/3期	増減率
売上高	3,027	3,160	4%
粗利益	1,582 (52.3%)	1,664 (52.6%)	5%
販管費	1,042 (34.5%)	1,031 (32.6%)	-1%
営業利益	540 (17.8%)	633 (20.0%)	17%
経常利益	526 (17.4%)	636 (20.1%)	21%
純利益	369 (12.2%)	407 (12.9%)	10%
期中平均レート	US\$ 101円 EUR 144円	93円 } 売上高 131円 } -4%影響	

売上高 (地域別)

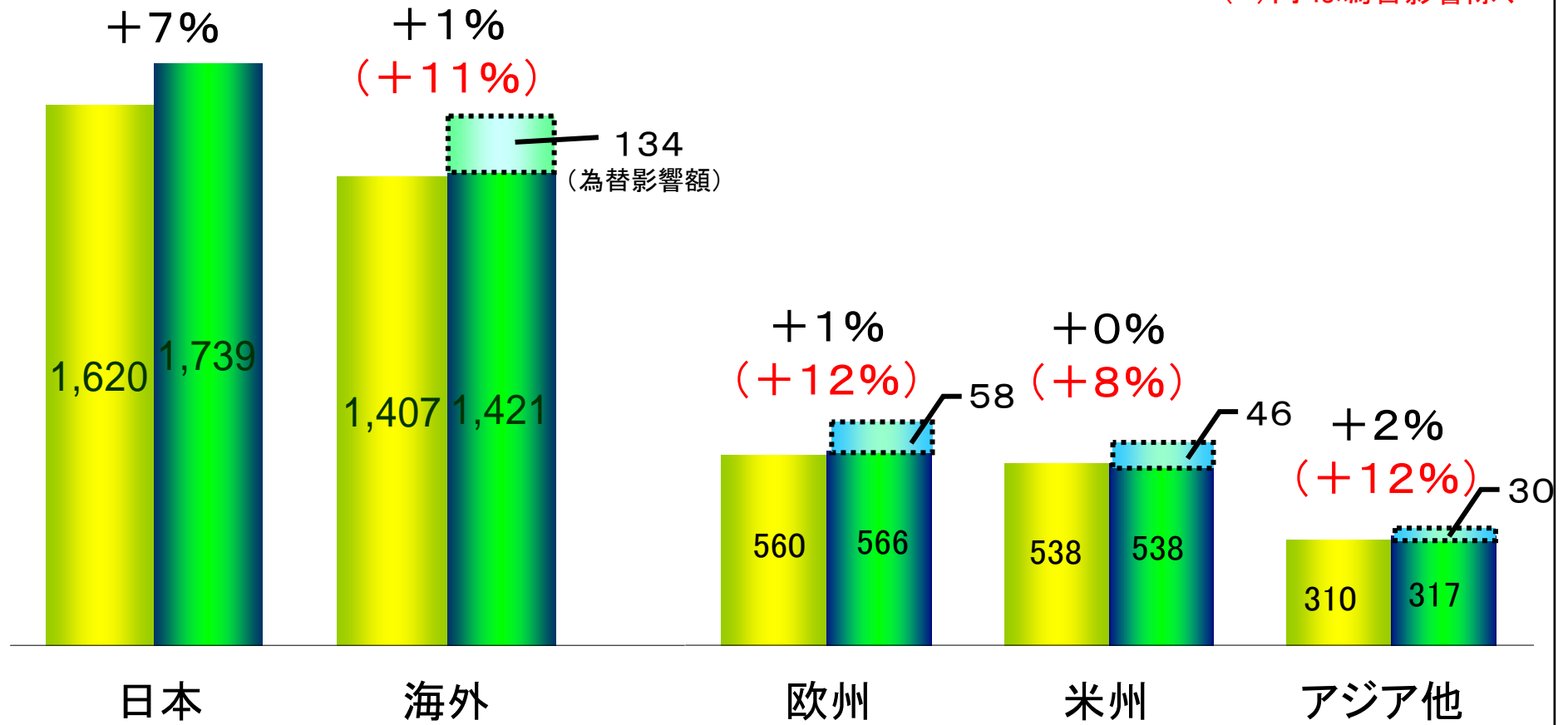
国内・海外合計
+4% (+9%)

海外比率 46%→45%

(億円)

09/3期 10/3期

()内は為替影響除く

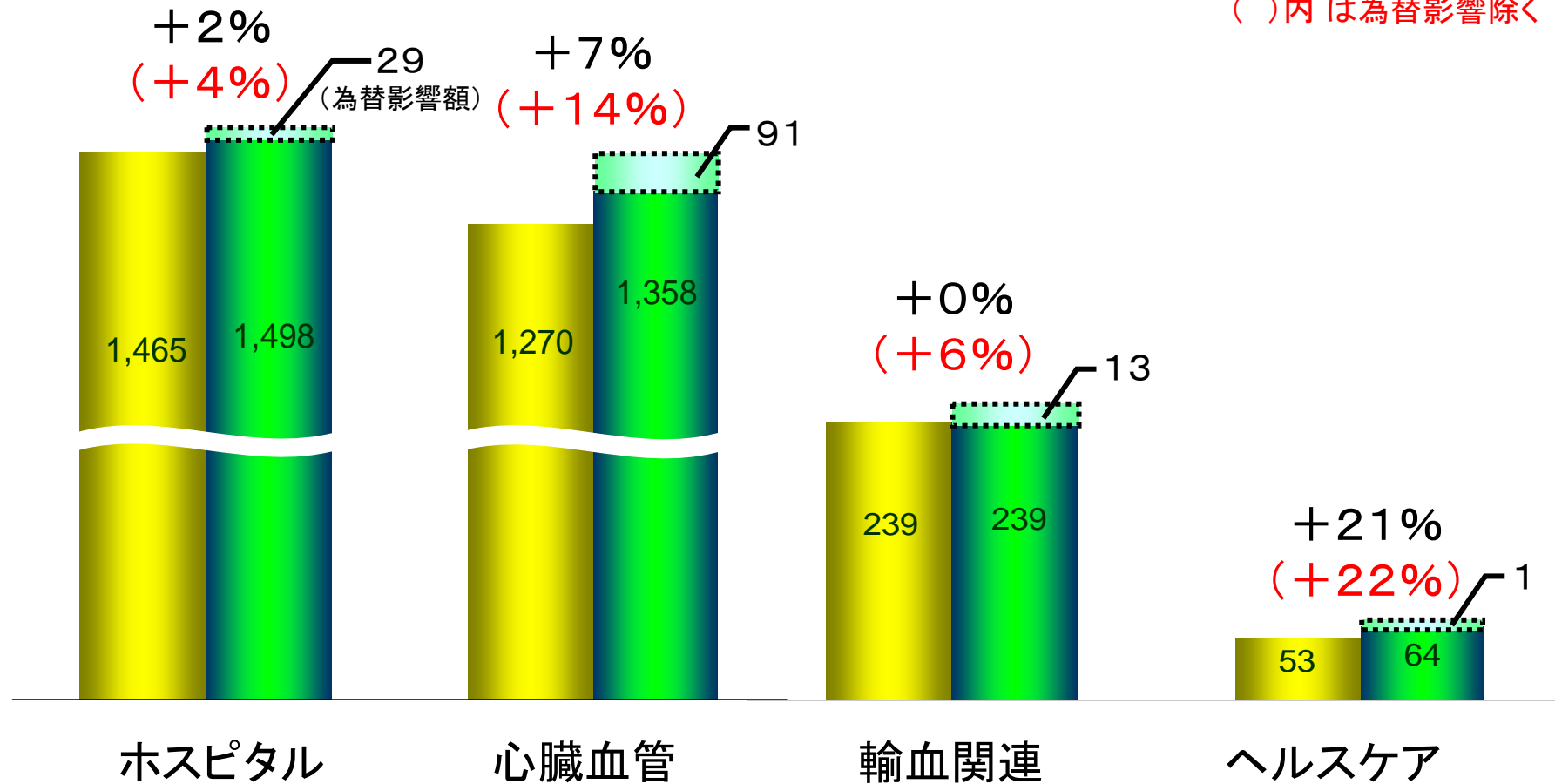


売上高 (商品群別)

(億円)

09/3期 10/3期

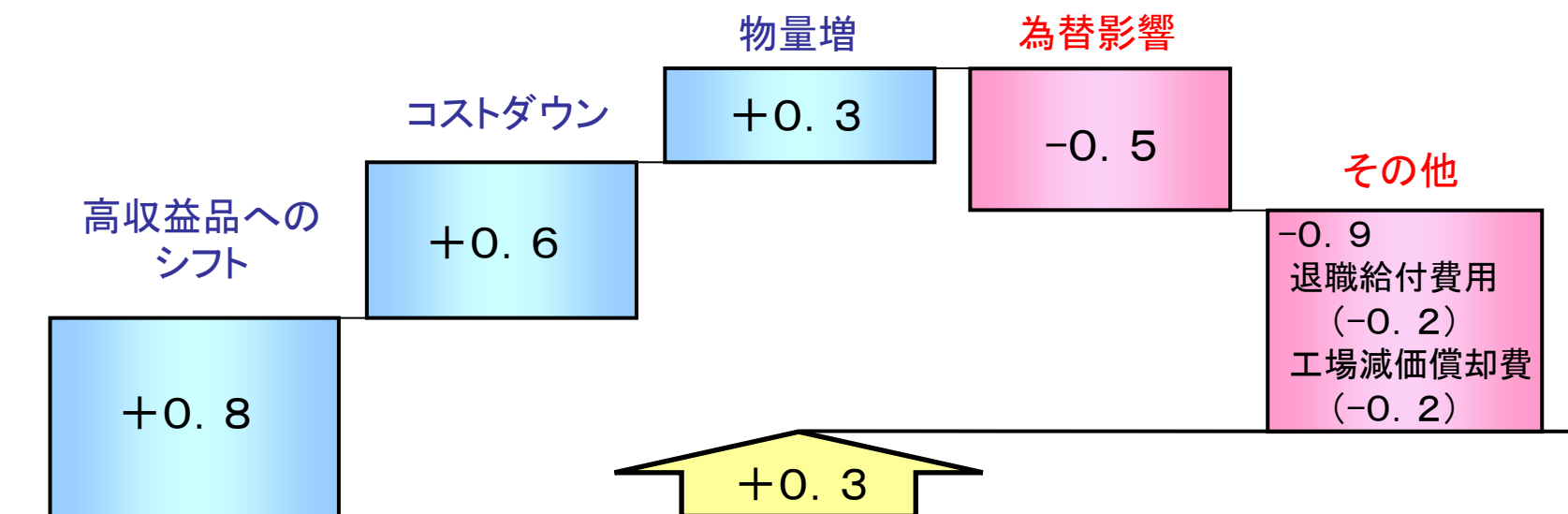
()内は為替影響除く



粗利益率差異分析

対前年プラス要因: +1.7pt

対前年マイナス要因: -1.4pt

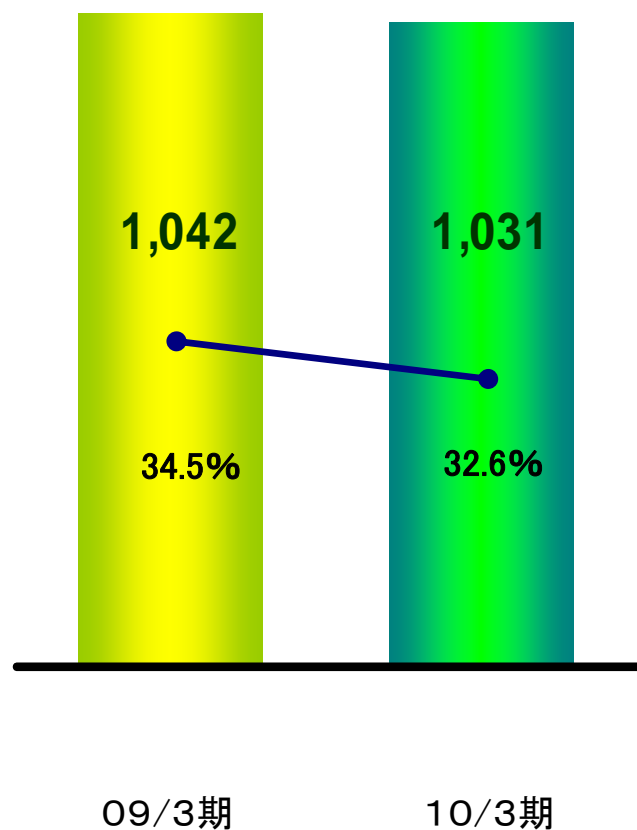


09/3期 52.3% → 10/3期 52.6%

期中平均レート	US\$	101円	93円
	EUR	144円	131円

販管費・開発費

(億円)



	09/3期	10/3期	増減	増減率
人件費	374	382	+8	2%
販促費	109	110	+1	1%
物流費	91	90	-1	-1%
償却費	55	51	-4	-9%
その他	241	223	-18	-8%
販管費計	870	856	-14	-2%
研究開発費	172	175	+3	2%
販管費合計	1,042	1,031	-11	-1%

2011年3月期の取り組み

「増収増益」を継続

(億円)

薬価公定価
為替の影響
除く

	10/3期 実績	11/3期 年間見通し	増減率	
売上高	3,160	3,330	5%	9%
営業利益	633 (20.0%)	652 (19.6%)	3%	17%
経常利益	636 (20.1%)	650 (19.5%)	2%	
純利益	407 (12.9%)	415 (12.5%)	2%	
期中平均レート	US \$ 93 円 EUR 131 円	90 円 120 円		

医療体制が変化

2010年4月 診療報酬改定

本体: +1.55%

急性期

- 手術料の引き上げ
 - 高度手術を中心に30~50%
- 救命救急関連
 - 救命救急入院料 充実度評価A加算
500点/日 → 1,000点/日
 - ハイケアユニット入院医療管理料
3,700点/日 → 4,500点/日
- チーム医療の評価
 - 栄養サポートチーム加算
200点(週1回)

より高度化・効率化

慢性期

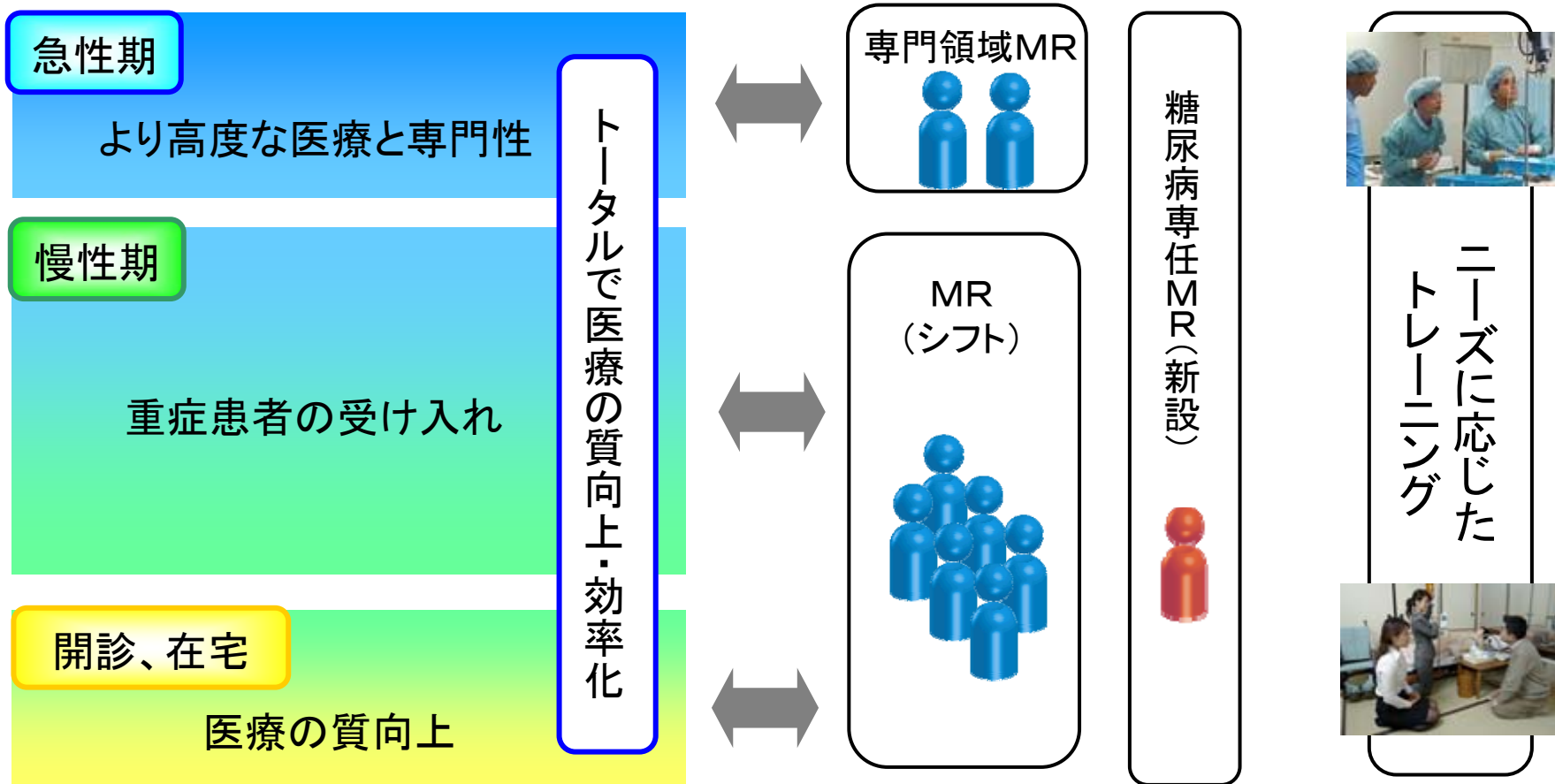
- 急性期の後方支援評価
 - 救急・在宅等支援療養病棟初期加算
150点(1日につき、14日以内)
- 重症患者受け入れに評価
 - 療養病棟入院基本料の引き上げ
1709点 → 1758点
(例. 入院基本料1 医療区分3/ADL区分3)
- 地域連携の評価
 - 地域連携診療計画退院時計画加算
100点

急性期・在宅医療との連携

販売体制を再編し、業績を拡大

機能分化と地域連携

患者シフトに合致した戦略



グローバルで医療改革が進行

米国



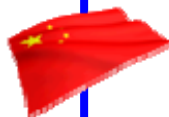
- 無保険者のカバー率向上による市場拡大
- 高額医療の見直し
- 企業への課税(2013年度より売上の2.3%)

欧州

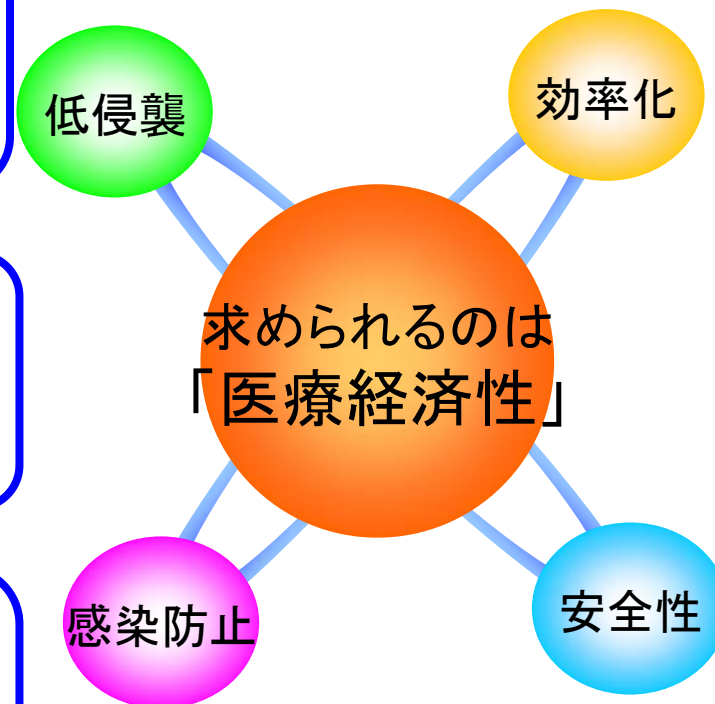


- 医療費の圧縮
- (ギリシャの財政問題)

中国



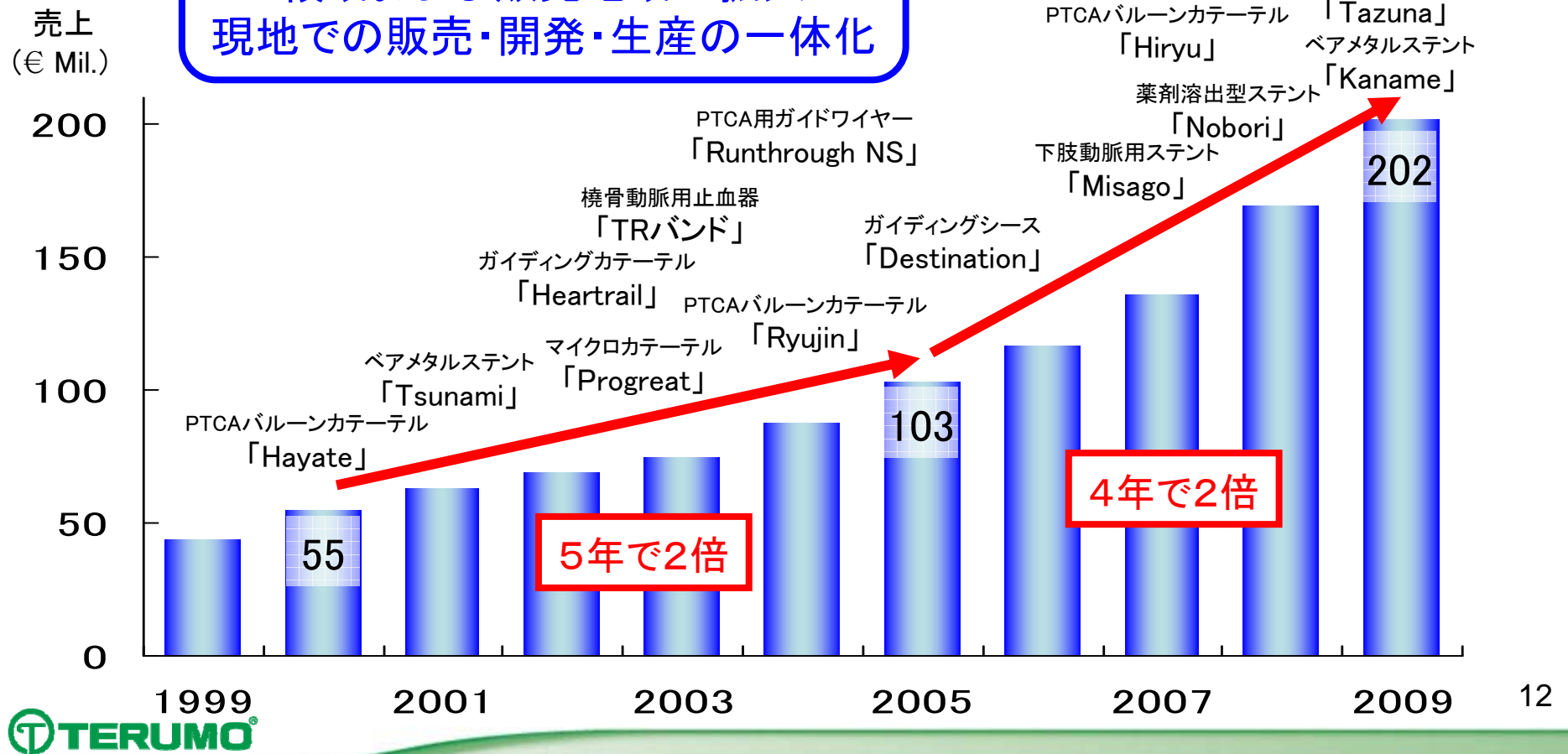
- 医療保険導入による市場拡大
- 医療サービスのレベルアップ
- 欧米、現地メーカーの台頭



欧州カテーテル事業モデルを横展開

売上は4年で2倍、2億€達成 ▶ アジア・中南米へ展開

継続した新商品の上市
領域および販売地域の拡大
現地での販売・開発・生産の一体化



販売・生産体制の拡充

トルコ

- ・欧州2位の7千万人
- ・平均年齢29歳
- ・地理的優位性

販売体制の拡充

中南米

- ・5億人(ASEAN6億人)
- ・70億ドルの医療市場
(ASEAN23億ドル)

トルコ事務所開設

コロンビア事務所開設

生産能力の拡充とコストダウン

- 中国 : 血液バッグ、体温計増産
- インド : 血液バッグ増産
- ベトナム : カテーテル、人工血管の生産開始
- フィリピン : ホスピタル商品増産

マイアミ
メキシコ

ブラジル輸入・販売機能を拡充 2009年

チリの現地代理店を子会社化 2007年

中国市場、商品レンジ拡大と次へのインフラ作り

現地完結型ビジネスへのインフラ作り

- ・開発、生産、販売のアライアンス推進
- ・中国に本部機能を設立
- ・ブランドカアップ

限定的ビジネス

- ・収益重視
- ・最小限のリスク



商品レンジ拡大

参考資料

10/3期の収支概況 - 対年間見通し

(億円)

	年間見通し	年間実績	進捗率	為替影響
売上高	3,150	3,160	100%	+25億円 (進捗率0.8%弱押上げ)
営業利益	630 (20.0%)	633 (20.0%)	100%	+7億円 (進捗率1.1%弱押上げ)
経常利益	610 (19.4%)	636 (20.1%)	104%	
純利益	400 (12.7%)	407 (12.9%)	102%	

為替レート(US\$)	90円	93円
(EUR)	132円	131円

10/3期の収支概況 - 対下期見通し

(億円)

	下期見通し	下期実績	進捗率	為替影響
売上高	1,569	1,579	101%	+25億円 (進捗率1.6%押上げ)
営業利益	304 (19.4%)	307 (19.5%)	101%	+7億円 (進捗率2.3%押上げ)
経常利益	288 (18.4%)	314 (19.9%)	109%	
純利益	192 (12.2%)	200 (12.6%)	104%	

為替レート(US\$)	85円	90円
(EUR)	130円	129円

決算概要 (四半期3ヶ月)

	09/3期 Q4	10/3期 Q4	(億円) 増減率
売上高	712	771	8%
粗利益	348 (48.8%)	403 (52.2%)	16%
販管費	263 (36.8%)	270 (35.0%)	3%
営業利益	85 (12.0%)	133 (17.2%)	56%
経常利益	99 (13.8%)	132 (17.2%)	34%
純利益	81 (11.4%)	89 (11.5%)	9%

期中平均レート

US\$ 94円
EUR 122円

91円
126円

} 売上高に-1%影響

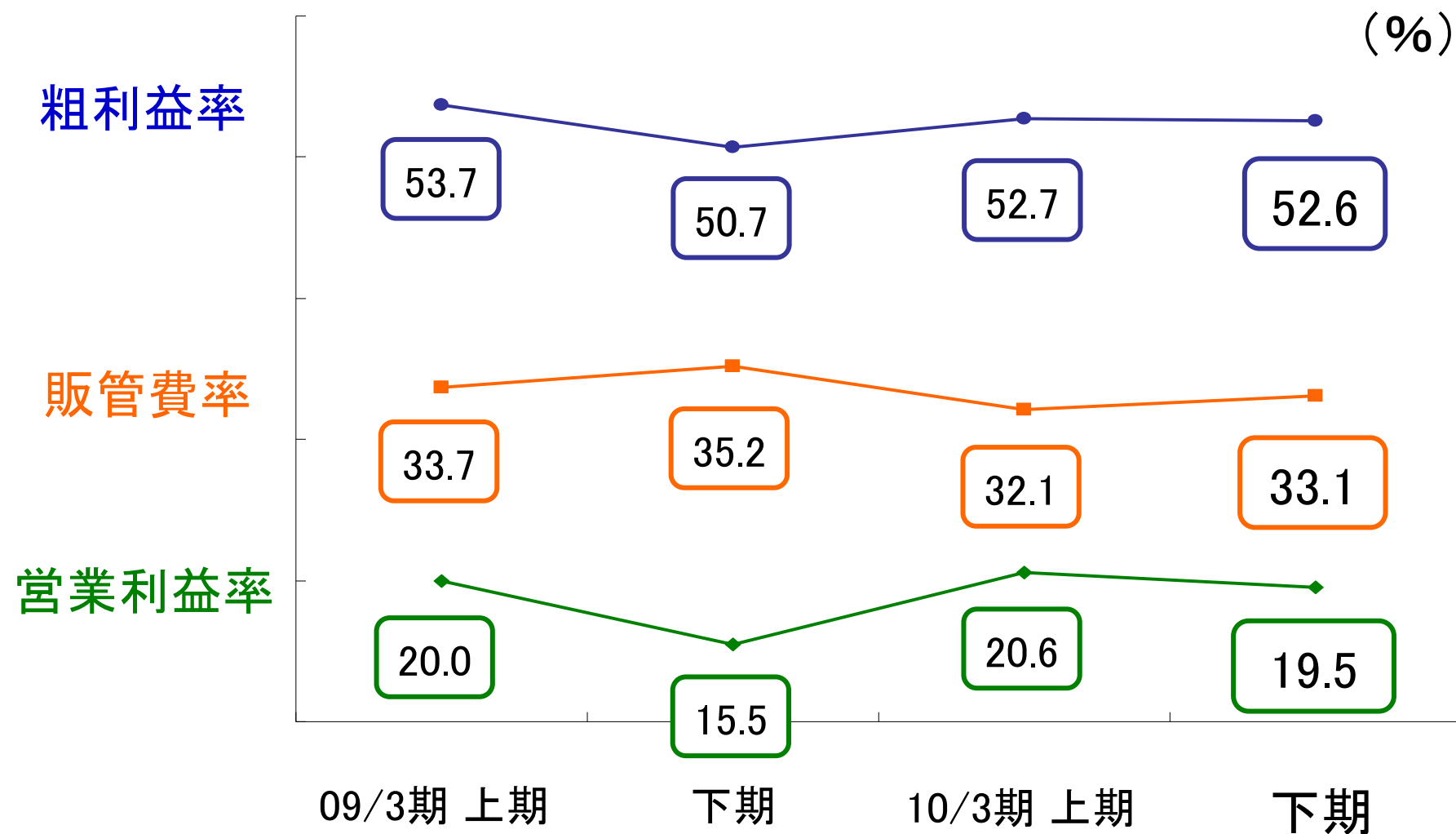
18

11/3月期見通し、薬価公定価・為替の影響

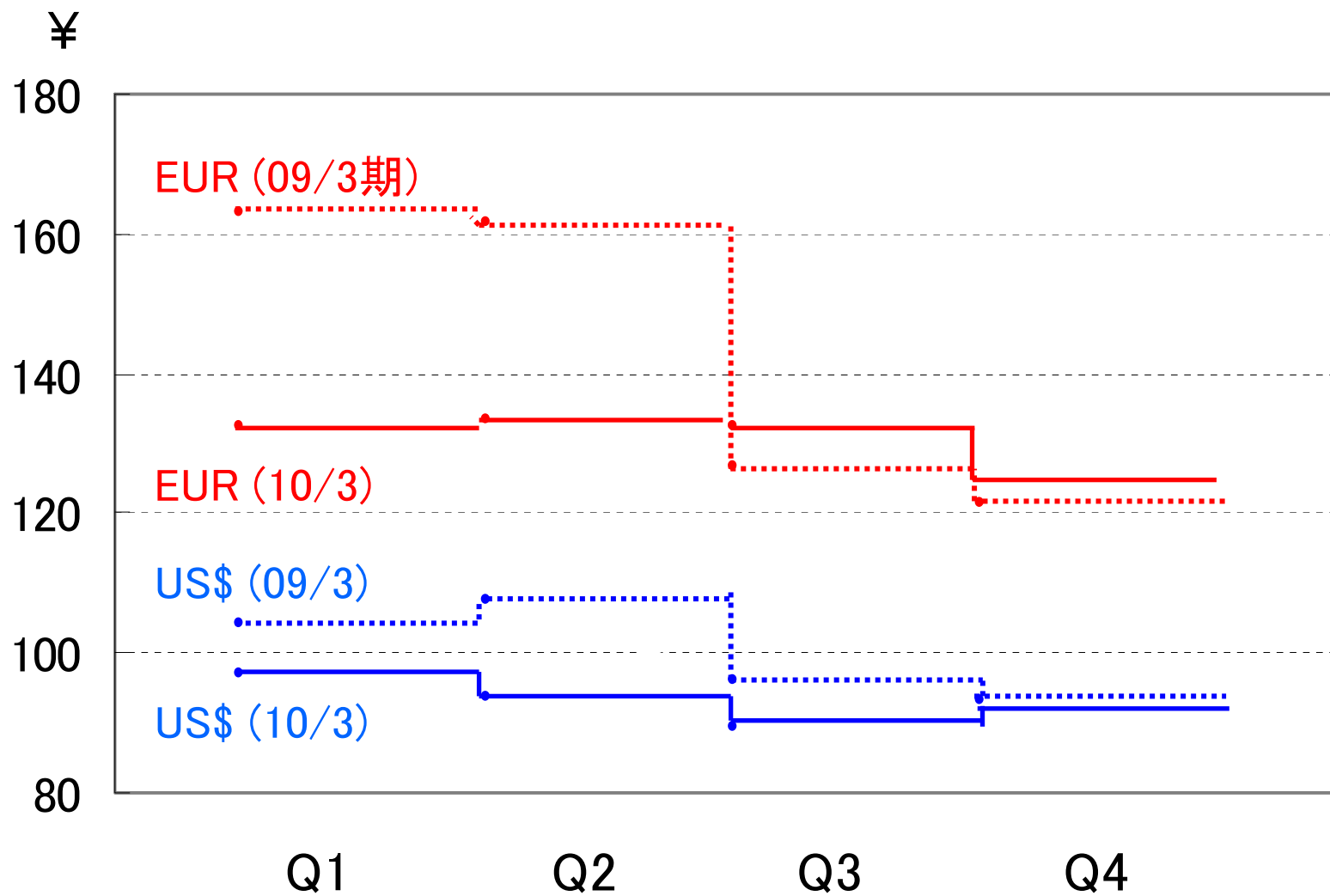
(億円)

	見通し	薬価公定価 為替の影響除く 見通し	差額	影響内訳
売上高 (対前年比)	3,330 (+5%)	3,461 (+9%)	131	{ 薬価・公定価 60 為替 71
営業利益 (対前年比)	652 (+3%)	743 (+17%)	91	{ 薬価・公定価 60 為替 31

粗利益率、販管費率



四半期平均為替レートの推移



《おことわり》

本資料のうち、業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な限られた情報に基づき、テルモで判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。

また、市場規模等については、当社の独自の調査を含んでおります。